

ワーキンググループA 評価コメント**事業番号A-27(1) 国際化拠点整備事業
A-27(2) 大学の世界展開力強化事業****評価者のコメント****(1) 国際化拠点整備事業**

- 一旦廃止するのが適切。英語コース開設のためといった用途限定を外すなど、抜本的に再構築する必要がある。
- 大学の国際化、留学生の受入れは大学教育に極めて重要。しかしながら、方法論として、当該事業に合理性が感じられない。特にコストが非常に高いのではないかと推測される。
- 目的の重要性は理解できるが、効果が不明の上、コストも高い。
- 受入留学生数450名を85コースで受け入れるプログラムなので、少ない大学(例:慶応大学経済学研究科)では1~2名の留学生に対して、英語コースを設置している。極めて非効率なプログラムであり、この仕組みで国際化拠点形成が構築できるとは考えられない。
- この事業によってできた英語コースに所属する留学生は学部106人、院313人。そのコースと一緒に学ぶ日本人学生は学部2人、院33人。効果が上がっているとは思えない。単なる留学生数の確認では意味がない。100%の定額補助も不合理。文部科学省の現役・OBの各大学における在籍数と予算の相関についても必ず公開すべき。
- すでに走っている事業で、人件費がほとんどであることを考えると、すぐに全廃というわけにはいかないと思うが、本来の大学業務として展開できるような仕組みづくりから始めるべき。当面はムダの削減で予算の有効執行につとめ、1/3縮減とします。
- 他事業との重複、不要な支出と思われるものが多々見られることから、予算を縮減されたい。
- 額の問題ではない。中身に問題。
- 留学生支援職員だけでなく、外国語(英語)コースを担当する教員の教育面の負担を軽減し、研究を促進するのに資する雇用が可能になるように、用途をもっと自由化すべき。
- 交付金、助成金等のあり方を見直し、一元化を図り、国公立大学のガバナンス改革を進めるべき。
- 大学の本来業務として取り組むべき。

(2) 大学の世界展開力強化事業

- 今回の説明、事前のヒアリングを含めて、必要性が感じられない(前首相の発言により事業化という説明では不十分)。大学の国際化、競争力を高めるための戦略について、文部科学省で深く検討すべき。

- ④ 予算要求通り 1名

(2)大学の世界展開力強化事業

見直しを要する

- ① 見直しを要する 12名
② その他 0名

とりまとめコメント

(1)国際化拠点整備事業

国際化拠点整備事業については、廃止の評価者7名のコメントを見ると、趣旨・目的はいいのだが今のやり方ではだめだということで、一旦組み立て直すとのことで廃止という意見が複数あった。予算要求通りという評価者も、使途自由化を要件に予算要求通りとなっている。評価者全体の大方の意見は、この大学の国際化拠点にするという大きな目標・目的については、今のやり方ではつながるとは思えないという意味で、一旦白紙で、どういうやり方をしたら国際拠点を作っていけるのか組み立て直して欲しいということ結論としたい。

(2)大学の世界展開力強化事業

大学の世界展開力強化事業については、やはり基本的には同じ構造であり、こうしたことの必要性については大方の評価者が否定されていないが、どういう大学にどういう形でやってもらうのかについて、一からきちんと組み立ててもらいたいということ結論としたい。